

民俗資料館だより

March 31st, 2012

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No.19

加茂市民俗資料館

館報 第19号

平成24年3月31日発行

編集・発行

加茂市民俗資料館

加茂市の文化財

資料館展示品の紹介

加茂市民俗資料館に展示中の民俗資料には、県内にもあまり類の見られない貴重な資料が存在します。今回は、その中の2点を紹介いたします。

1 ダイロ

昭和50年1月12日に灌漑用具(揚水器)「てっぼう」・「ダイロ」・「じゃ車」が一括して加茂市有形民俗資料文化財に指定されました。灌漑用具とは、川や池から田へ水を汲み上げる揚水器ですが、「てっぼう」が注射器のように直線的に水を吸い上げる方式になっているのに対し、「ダイロ」は回転して水を吸い上げる方式になっています。回転式の揚水器は水上輪^{すいじょうりん}と呼ばれ、アルキメデスが考案した螺旋^{らせん}の仕掛けを木製の細長い円筒の内部に取り付けた揚水ポンプです。日本には中国を経て17世紀中頃に伝わりました。江戸時代、日本最大の産出量を誇った佐渡金銀山は、地下水の排水処理に悩まされ続けていましたが、承応2年(1953)から水上輪を使用し始めました。やがて、農村部でも揚水器として使用されるようになったようです。使用した地域によって、呼び方も違います。ジャバラ、ダイロ、タツ、ホラ、タツマキ、ダイロマキ、ダイロウ等多彩です。木製のものは数が多いようですが、加茂市のようなタン製^{タン}の物は希少だということです。所蔵してある施設は県内でも7箇所くらいです。

(参考文献;新潟市歴史博物館資料)



写真は民俗資料館所蔵のダイロ



民俗資料館所蔵の「木製だるま自転車」

2 木製だるま自転車

この乗り物は、初めて日本に入った明治3年頃、文明の利器として珍重された自転車です。初めの頃は、今の子供が乗る三輪車と同じくチェーンが無く、前輪を大きく後輪を小さくしてありました。

民俗資料館に展示されているのは初期のもので、「だるま自転車」と呼ばれ、町には何台もありませんでした。車大工をしていた齊藤さんという人が、輪もスポークの部分も木で作ったもので、昭和30年頃まで少しは乗れたようですが、現在は輪の部分にビビが入っています。その後、チェーンも考案されましたが、車体の型はあまり変わらず、木製に金属の輪を着けたもので、お尻が痛いには困ったということです。

日本の自転車は明治30年頃から次第にゴム輪に変わってきましたが、一般的には金輪のものを使用していました。明治40年代になると、現在の型とほぼ同じものになりました。本県全体で2000台と記録されており、加茂市七谷地区は2台であったと加茂市史に載っています。

商店のショウウィンドウに「だるま自転車」が飾られているのを見かけることもありましたが、前輪の大きいこの型は道行く人々に親しみとユーモアを与えていました。資料館のこの自転車は、多分日本唯一の文化遺産ではないでしょうか。

(参考;横山旭三郎元民俗資料館館長資料)

加茂農林高校の植物園

加茂市文化財調査審議会委員

中野 保栄

農林高校の赤レンガの校門をくぐると、左右に展開する植物園がうっそうと茂り、年月の経過の深さを感じさせる。県内の高校にあって、これだけの規模の植物園を持っているのは、加茂農林高校だけであろう。園内は堂々としていて、落ち着いた空間を持ち、学習の場へ誘い、同時に憩いの場を提供してくれる。生徒たちは登下校に関しては、必ず植物園の中央通路を通り、樹木の枝葉が作る屋根をくぐり抜けるのである。

農林高校は平成14年で創立百周年を迎えた。学校の沿革史によると、この植物園は明治37年の日露戦役の記念として設計され、起工されたのだという。造成時には樹木園3反3畝（約3,300平方メートル）、草花園6畝（約300平方メートル）であったらしい。樹種は200余種約300本、草花の種類は70種であったと記録されている。

当時の植物園は学術上の参考に、また、衛生及び風致を計って樹木を植え、植物見本園とする計画であったらしい。園内には、林業に関係する有用樹種を主とし、更に、薬用及び有毒植物を学術用の分類により、区画植栽している。

しかしながら、これらの樹木は年月が経つに従って植物園の諸条件が崩れ、樹勢が衰えていった。また、諸の害に対する抵抗力が低下して、枯死していったものもあったであろう。加えて、自然災害による倒木災害等で、当初より半数以上の樹木が減っている。

学校では校風の下、学校創設と共に推進してきた生徒達の勤労奉仕（ボランティア）による植え付けが続いていった。



←写真① 「青海百年」より
日露海戦の提督来校

明治39年7月21日、海軍大将東郷平八郎氏、同中将・上村彦之丞氏来校視察、人力車10余台のうち先頭車、赤星校長



↑写真② 造成当時の植物園 「青海百年」より

参考文献

「青海七十年」

「青海八十年」

「青海百年」

加茂農林高等学校

「北越農林」

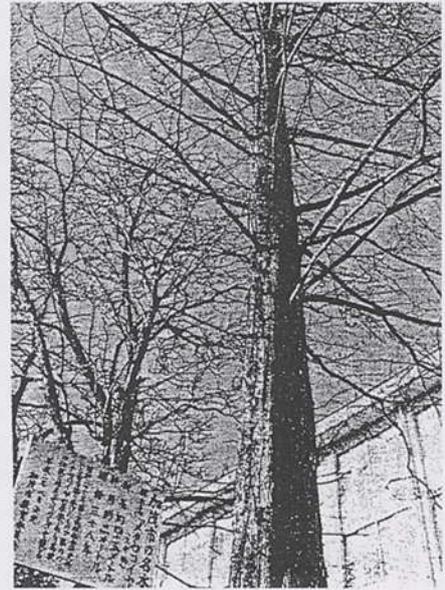
加茂農林高等学校同窓会

時勢は変わり、第2次世界大戦から終戦にかけて食糧難時代が続き、植物園も伐採の運命に遭遇した。けれども、当時の寄宿舎生達は「われわれの食事は2回に減らしても良いから、何とか伐採だけは止めていただきたい。」と学校側に申し出たそうである。これらの精神と愛情が植物園に加わって、現在に引き継がれてきたのだといわれている。更に何回かにわたって松食い虫の被害に遭ったものの、全滅を免れて元気に育っているものもある。ごく最近になって、コナラ・カシワの害虫(カシノナガキクイムシ)による被害で失われてゆくものもある。病害虫にも耐えて逞しく育って欲しい。

最近、この植物園で育った樹木について、2つの話題を述べてみたい。その1つはメタセコイアである。現在、この園内に20メートル以上の樹木は相当数存在しているが、このメタセコイアは植物園内で最も樹高が高く29メートルある。加茂市の銘木となっているが、日本各地から化石として発見されている。日本には300万年から100万年以前にたくさん生えていたらしい。だから、生きている化石として有名である。植物園内のメタセコイアは、その種子から繁殖に成功し、昭和27年農林省林業試験場から贈られた県内初の2本であった。挿し木が簡単で増やせることから、県内の方々に育っている。

その2つめは、コウヤマキである。明治38年の日露戦争で活躍した東郷平八郎海軍大将が、翌年、加茂町を訪れている。町民あげての盛大な歓迎だったそうである。その際、農林高校の視察に来校されている。そしてコウヤマキを植栽した。

このように時代は変化していくが、育ち続けていく植物園に拍手を送りたい。



写真③ メタセコイア「青海百年」より



写真④ コウヤマキ「青海百年」より

アオギリ	アカガシ	アカマツ	アカメガシワ	アキニレ	アベマキ	アラカシ
アワブキ	イイギリ	イチイガシ	イチョウ	イヌシデ	イロハカエデ	ウバメガシ
ウラジロガシ	エゴノキ	エゾユズリハ	エノキ	オオカメノキ	オオバボダイジュ	オオモミジ
カキ	カツラ	ガマズミ	キササゲ	クヌギ	クマシデ	ケヤキ
コウヤマキ	コウヨウザン	コナラ	コメツガ	ゴヨウマツ	サルスベリ	サワラ
シオジ	シダレザクラ	シナノキ	シラガシ	スギ	スタジイ	ストローブマツ
セイベルセコイア	ソメイヨシノ	チャンチン	チョウセンゴヨウ	ドイツトウヒ	トウカエデ	ドウダンツツジ
トチノキ	ナナカマド	ナラガシワ	ニセアカシア	ネコシデ	ネジキ	ネズミサシ
ハクウンボク	ハクモクレン	ハゼノキ	ハリギリ	ハンノキ	ヒイラギモクセイ	ヒノキ
ヒバ	ブナ	ボダイジュ	マテバシイ	マユミ	マルバマンサク	ミズナラ
ムクロジ	メタセコイア	ヤマザクラ	ユズリハ	リキダマツ		

加茂農林高校植物園の樹木一覧

館外活動

① 古文書講座

恒例の古文書講座は、熱心な受講者の皆様に支えられ29回を数えました。益々充実した内容にしていきたいと思っています。

開催時間 午後7時～8時40分
会場 加茂市公民館第1研修室

第1回

平成23年8月30日(火)
講師 関正平先生
(加茂市文化財調査審議委員)
一般参加者 43名

テーマ

「幕末の上条・加茂を読む」
—上条の商人史料から—

講座内容

天保12年、上条の関氏により認められた「年代記」を解説した。
商売に関する事柄だけでなく、日本全体の政治、気象、事件等、広い視野で記述している。

第2回

平成23年9月6日(火)
講師 溝口敏磨先生
(加茂市文化財調査審議委員長)
一般参加者 37名

テーマ

「長瀬神社の明治期の祭礼」

講座内容

明治期、長瀬神社の祭礼に関する誓約書、許可願等の文書を解説した。



溝口 敏磨 先生

第3回

平成23年9月13日(火)
講師 佐藤賢次先生
(加茂市文化財調査審議委員)

一般参加者 35名

テーマ

「青海神社古川舎人の神葬祭一件」

講座内容

青海神社古川舎人(古川茂陵)の人となりについて触れた後、「指上申一札之事」の文書を示し、神官の葬祭について、舎人と大昌寺とのやり取りや、寺社奉行への訴訟の終始等を解説した。

第4回

平成23年9月20日(火)
講師 丸山朝雄先生
(加茂市文化財調査審議委員)
一般参加者 35名

テーマ

「古文書の書体について」

講座内容

「三行半」の文章として有名な離縁状の解説から入り、鶴の森村の永井慈現が開設した狂疾病院の葉の宣伝文を「東講商人鑑」から引用して解説した。また、解説練習として江戸時代の「五人組書上帳」取り上げた。



丸山 朝雄 先生

第5回

平成23年9月27日(火)
講師 長谷川昭一先生
(加茂市文化財調査審議副委員長)
一般参加者 36名

テーマ

「長瀬神社と猿毛・日吉神社の御神木について」

講座内容

猿毛山名主の新右衛門が山王神社境内の杉の払い下げを願い出た件に対し、管轄の小池大隈神主が新発田藩寺社奉行宛てに出した回答案文「山王神社社木につき寺社奉行宛回答」等を解説した。

②歴史講演会

日時 平成23年11月19日(土)
会場 加茂市公民館 第1研修室
講師 長谷川 昭一 先生
(加茂市文化財調査審議委員)
テーマ 「加茂の大地主の土地所有について」
一般参加者 47名
講演内容

- ・いわゆる地主小作制について
少数の大地主と多くの零細農民で成り立ち、その特徴は、①家族経営の稲作と②現物の小作料であった。
- ・巨大地主のメッカ 蒲原平野
全国的に見ても、新潟県には大地主が多く存在し、巨大地主は、在村地主を飲み込みながら拡大していった。昭和になり縮小し、次第に地主経営から転換していった。
- ・大地主の土地所有
主要地主の小作地の多かったところ市川家；加茂・下条、石田家；七谷狭口、加茂新田は、原田巻と三菱で3割を所有、須田は両田巻家、七谷は在村の山林地主鶴巻家が断然であった。

③特別歴史講演会

日時 平成24年3月10日(土)
会場 加茂文化会館小ホール
講師 四柳嘉章先生
(石川県輪島漆芸美術館館長
漆文化財科学研究所所長)
テーマ 「漆器考古学の世界」
一般参加者 110名

講演内容

- (1) 漆の分析法
考古学では、扱う材料を科学的に決めないと議論にならない。分析には顕微鏡を使用していたが、研究所では、赤外分光分析装置やエネルギー分散型蛍光X線分析装置も使用し精度を上げている。
- (2) 漆文化のはじまり
漆利用の最古の例は、北海道の渡島半島垣ノ島B遺跡から検出された。約9000年前、土坑墓での、仰臥屈葬(あおむけで膝を折り曲げた埋葬法)の遺体着装品である。遺体は赤色漆塗り糸で髪を束ね、肩、腕、足にも織物状の衣服あるいは装身具を身に着けていた。また、世界最古の漆の木が福井県鳥浜貝塚から発見されている。縄文時代の主な漆器出土遺跡の分布を見ると、日本海側に多い。対馬海流を介した文化の伝播、あるいは交易が盛んであったと考えられ、大陸も視野に置く必要も出てくる。素地を作り、下地から上塗りまで施された本格的な漆

製品は、石川県七尾市三引遺跡出土の漆塗り櫛である。結歯式堅櫛と呼ばれる形式のもので、両端に小さな角状突起がついている。漆塗りは下から漆2層、パイプ状ベンガラ漆4層の順に塗られた漆塗り技法である。

- (3) 弥生時代
漆器の種類は縄文時代と変わらないが、着色は赤色漆主体の縄文漆器に対して大きな変化が見られる。弥生時代前期は赤色と黒色を塗り分けたが、後期になると黒色漆が主体となり、古墳時代から奈良時代に継承される。
- (4) 税としての漆・漆工品
漆器は、「祖」で産物を購入して中央に貢進する「交易雑物」としても、越前、加賀、越中、越後の諸国に課せられている。京に集荷された漆は、律令国家の工房で漆器生産にあてられた。
- (5) 中世
平安時代も後期になると国家権力は衰え、各地で新たな漆器生産が開始された。荘園絵図で知られる越後「奥山荘」では、大量の漆器と挽物、木地製品・荒方、漆工用具が見つかり、荘園内における一貫生産がうかがわれる。
蒔絵の世界では、11世紀に描割や引掻き技法が出現し、多様な表現が可能となった。また、螺鈿工の分化も見られ、自立化が進行している。こうした中で、11～12世紀にかけて材料や工程を大幅に省略した炭粉渋下地漆器が出現する。下地は漆の代用として柿渋と炭粉を混ぜたもので、漆塗りも1・2回程度の簡単な工程であった。当時の漆の値段は非常に高価であり、漆1升の価格は大人一人の賄い一年分に相当していたと考えられる。また、漆器を所有できる階層は三位以上の貴族であったので、身分表示にもなっていた。
- (6) 近世
徳川幕府の成立によって社会が安定へと向かい、各藩は産業の奨励と保護を行ったため、各地に漆器産地が生まれた。その生産の具体的内容になると、今までの限られた記録からだけではうかがい知ることは困難であったが、考古学と文化財科学的な近世漆器の調査が進展するに及んで、地域的な動向や特色がかなり浮かび上がってきている。



四柳嘉章先生

平成23年度の歩み

1 入館者数

平成23年4月～平成24年3月

	市内	市外	計	団体
大人	292	599	891	7
小中学生	394	50	444	10
計	686	649	1,335	17

2 資料収集の状況

本年度は6名の方から56点のご寄贈を賜り、お礼申し上げ、紹介させていただきます。

(寄贈品名)

防寒用外套 膳写版ヤスリ 孔版用ステンシル

陸軍大演習記念写真パネル 花瓶 半切桶 朱鉢台

膳腕 おかもち 木皿 時絵重 黒椀 黒塗膳

替朱重箱 替朱重 朱重箱 作業台 鉄瓶 水入れ

幻燈機 五徳 兜 小皿入れ箱 銭拵 そろばん

締め太鼓 書見台 矢立 屏風 三方 兜 鉄砲

分銅 天秤ばかり 水切り桶 大皿 藁人形

袴 布地 防毒マスク

(寄贈者ご芳名)

諸橋千恵子様 野崎 俊郎様 織原 富雄様

中山 勇様 岡田 チヨ様 北條 健一様

3 レファレンス・サービス及びアンケート調査

(民俗資料館への問合せ)

①レファレンス・サービス(43件)

- ・丸山遺跡に関する資料、地層の資料が欲しい
- ・資料館にある金属製水上輪の構造を詳しく見せてほしい
- ・南北朝時代、岳山城に一時いたという宗良親王についての資料が欲しい
- ・加茂の古墳について知りたい
- ・後面についての資料が欲しい
- ・上条城について知りたい
- ・加茂川に架かる橋について知りたい
- ・加茂の昔話について知りたい
- ・加茂と良寛のつながりについて知りたい
- ・資料館にある船筆筒を詳しく調査したい
- ・加茂紙について知りたい

②来館者の声

- ・資料が多く見ごたえがあった。年代別によく整理されていた。
- ・無料で有難い。立派に保存されていて感動した。
- ・当時の暮らしぶりが残っている物を近くで見られて良かった。写真(町の人の様子)も掲示してあると良い。
- ・老人でかなり視力が落ちている。遺跡の地図の該当場所に色をつけて示していただくと良いと思う。
- ・とても懐かしく、感慨深かった。子供の頃を思い出した。
- ・展示品が多いのに驚いた。
- ・きれいに飾られていてとても見やすかった。

4 博物館実習

・8月15日～8月23日

新潟大学人文学部 学生1名

東洋大学文学部 学生1名

平成24年度の事業予定

○加茂和紙の技術保存・伝承

○加茂市の遺跡に触れる会

○昔の加茂を映像で振り返る会

日時 8月12日(日)

午後2時～午後3時30分

会場 加茂市立図書館(視聴覚室)

内容 新潟国体ハイライト

観光の加茂

加茂歴史散歩(加茂編) 他

○古文書講座

第1回 8月 28日(火) 関 先生

第2回 9月 4日(火) 佐藤 先生

第3回 9月 11日(火) 溝口 先生

第4回 9月 18日(火) 中野 先生

第5回 9月 25日(火) 長谷川 先生

○歴史講演会

日時 平成24年11月17日(土)

午後2時～4時

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 溝口 敏磨 先生

○特別歴史講演会

期日、講師ともに未定

加茂市の遺跡

平成23年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課係長 伊藤秀和

本年の遺跡調査は、開発事業に関連した試掘・確認調査が5遺跡、緊急雇用創出事業に関連した測量・確認調査が1遺跡を対象に行われた。主な調査について報告する。

1 鬼倉遺跡—古代—

調査地 加茂市大字矢立新田字八反田地内

調査面積 約39.4㎡

調査期間 平成23年11月9日・10日

調査原因 排水路改修工事

調査の概要 鬼倉遺跡は下条川右岸の沖積地に立地する大規模な古代の遺跡である。国道403号線バイパス用地内の調査では、河川跡から多量の墨書土器などが出土している。今回の調査対象区域からは遺構、遺物ともに確認されなかったが、土層堆積状況から周辺に遺跡が存在する可能性が高い。



鬼倉遺跡位置図



鬼倉遺跡 確認調査風景



鬼倉遺跡 土層断面

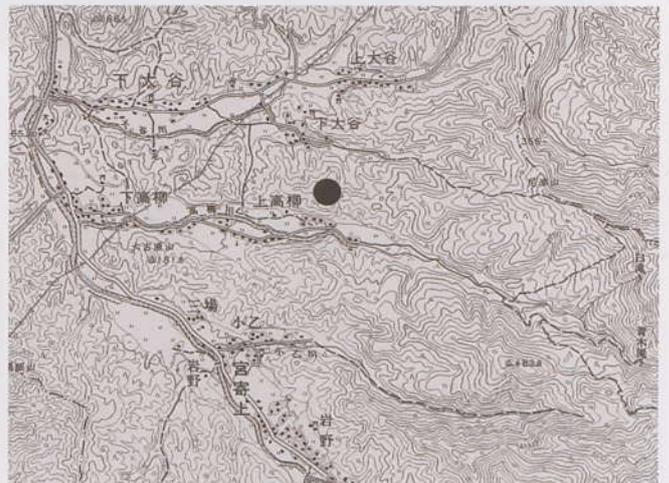
2 高柳城跡—中世—

所在地 加茂市大字上高柳地内

調査期間 平成23年9月5日～11月28日

調査原因 学術調査(緊急雇用創出事業)

調査の概要 高柳城跡は高柳川上流右岸の丘陵上に立地した戦国時代の山城である。別称「御殿山」とも呼ばれる。今回の調査により、本丸、曲輪、横堀、土塁、堅堀などが重層的に配置されていることが、より明確となり、高い防御性を備えていたことが確認された。全体的な規模はそれほど大きくはないが、各遺構の遺存状況が良好で中世山城のモデルとして、堂々の佇まいをまとっている。標高225mにある本丸は見晴らしの利く場所にあり、素晴らしい眺望が望める。城跡までは麓から徒歩約20分ほどで登れる。城の麓にも「城山下」や「寺下」などの小字が残り、山城との関連が推測される。平成19年度に加茂市指定史跡となった。



高柳城跡位置図



高柳城跡 遠景



高柳城跡本丸 調査風景



高柳城跡 土塁



高柳城跡 横堀



高柳城からの眺望（上高柳方面）



高柳城址からの眺望（下大谷方面）

編集後記

平成18年以来の豪雪となり、日常生活や交通機関、住宅等も脅かされました。そんな雪の中、元気な小学生の訪問も数多くあるなど、年間を通して来館者も増加しました。また、主催事業にも多数の入場者を数え、市民の皆様の熱意を感じる事が出来ました。厚くお礼申し上げます。最後になりましたが、今回、玉稿を賜りました中野保栄氏に深く感謝申し上げます。

加茂市民俗資料館

- 開館時間 9:00 ~ 17:00
- 休館日 月曜日、毎月第1,3,5土曜日
祝日、年末年始
※ 但し、4,5月は月曜日のみ（祝日に
当たるときは次の平日）

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1
TEL / FAX: 0256 - 52 - 0089
E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp